ヒートアイランド対策の検討事項について

資料６

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 検討項目 | 現　状 | 課題及び論点 | 事務局の考え方 |
| 推進計画の目標の考え方について | ・現計画では平成12年（2000年）から  2025年までに熱帯夜数を3割減らす。  ・計画の基準年(2000年)から2011年まで、熱帯夜数は下記の3都市の平均で0.8割  減少している。地球温暖化の影響を考慮  した場合は、1.4割減少している。  ※熱帯夜数(地球温暖化の影響を考慮しない場合)   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | |  | 平成12年 | 平成23年 | 増減 | | 大阪 | 46日 | 43日 | ▲3日 | | 豊中 | 36日 | 33日 | ▲3日 | | 枚方 | 29日 | 27日 | ▲2日 | | 3地点平均 | 37日 | 34日 | ▲3日 |   ※熱帯夜数(地球温暖化の影響を考慮した場合)   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | |  | 平成12年 | 平成23年 | 増減 | | 大阪 | 46日 | 41日 | ▲5日 | | 豊中 | 36日 | 32日 | ▲4日 | | 枚方 | 29日 | 24日 | ▲5日 | | 3地点平均 | 37日 | 32日 | ▲5日 | | ・熱帯夜日数では気候変動の影響等  　を受けるため、ヒートアイランド対策の進捗による効果が示せない。熱帯夜日数以外の具体的な目標設定が必要ではないか。 | ・シミュレーションの開発により、熱  帯夜日数を3割削減するために必要な気温低下量から、実施すべきヒートアイランド対策量を示すことができようになった。今回、他部局の計画と整合を図りながら、実施すべきヒートアイランド対策量（対策指標）を設定する。 |
| ・クールスポットを創出する。  アンケート調査等を通じて意識調査を実施している。  ※平成24年夏、大阪クールスポット100選  　・府内のクールスポット119箇所選定  平成25年度夏　大阪府インターネット調査  ・クールスポットが身近なところにないが利用  したいと考えている人は7割から8割程度。 | ・目標数値が記載されていない。具体的にどれくらいのクールスポットを創出するのか。目標数値を設定する必要はないか。 | ・昼間の暑熱環境を緩和するクールス  ポットは潜在的に多数あると考えら  れるが、認知や活用されていないこ  とが課題であり、今後は府民の意識  を高めたり、クールスポットへ誘導  するためのマップ作成等が必要と考  えている。 |
| 検討項目 | 現　状 | 課題及び論点 | 事務局の考え方 |
| 主な施策の推進  （建築物の高温化抑制） | ・建築物の高温化抑制の取組みが進んでいない。  ※H24、25年度CASBEE重点評価3以上の割合  ・みどり・ヒートアイランド対策60％程度  ・CO2対策、省エネ対策は100%近い | ・建築物および敷地におけるヒートアイランド対策を促進させる制度が不十分ではないか。 | ・熱負荷計算モデルを活用し、建築物および敷地におけるヒートアイランド対策の効果を検証し、本モデルの普及啓発に努める。  ・効果検証の知見を踏まえ、建築物および敷地におけるヒートアイランド対策を促進する制度等の導入を目指す。 |
| 主な施策の推進  （適応策の推進） | ・具体的な施策について明記されていない。  ※平成25年度より高槻市（商店街ドライミスト）  と枚方市（歴史街道での打ち水）で環境省が適  応策モデル事業を実施中。 | ・どのような適応策を推進するのか。 | ・環境省の適応策モデル事業等の結果  を踏まえ、効果的な適応策を普及さ  せる。  ・面的対策に向け、ヒートアイランド  に効果のある街路等における緑化手  法について検討を行なう。 |
| 推進体制、進行管理の方法 | ・庁内の推進体制、進行管理は、庁内検討部会構成メンバーにより実施。  ※平成25年度は、大阪府ヒートアイランド対  策推進会議検討部会を2回開催。 | ・進行管理は、各事業部局の実施状況を報告しているだけで、達成状況がわからない。各事業部局の対策指標の達成状況の進捗管理が必要ではないか。  ・庁内だけでなく、府内市町村との  　連携が必要ではないか。 | ・対策指標の達成状況が把握できるよ  うに、対策指標を設定する。  ・府内のヒートアイランド対策が必要  な都市と連携する体制を構築する。 |